

日本でしかできないモノづくりの探求

指先をもたます
本物以上の質感

「中国製でコピーできるならご自由」という感じですが(笑)とは、トリニティの星川哲視氏。自信満々の新作シリーズ「次元」のiPhoneケース「革」を拝見したところ、見た目は柔らかな風合いのラム革。触っても指先は、これはラム革です。と、言い張る。

でも正体はプラスチック製だ。頭では分かっているけど、ステッチの立体感があまりにリアルなので「縫製だけ本物ですか?」とお馬鹿な質問をしてしまったほど、非常に高精度な表面の加飾(テクスチャー)なのである。

「次元」は、D3TEXTUREとのコラボレーションで誕生した。D3TEXTUREは、簡潔に説明すると、日本の最先端技術を駆使した3Dコピー。しかし最先端のデジタル設計図があっても、それを成形する高い技術をもつ工場が必要だ。そこで選ばれたのは、日本の金型メーカーでトップ10に入るといって檀山金型工業だった。

「中国にはD3TEXTUREの技術はないですし、檀山金型工業と同じレベルの特殊金型技術もない。コピーは現実的に難しいのです」市場にあふれる中国製品をみて世界を驚かせる日本製品を作りたいかったという星川氏。

「次元」は、日本にしかない技術で作られた、真の「MADE IN JAPAN」なGadgetだ。

シンプルイズム

デジタルツールの輸入・製造・販売を行なう「トリニティ」のオリジナルブランド。シンプルではあるけれど、さりげないアイデアを詰め込むことで、使い勝手の良いコストパフォーマンスに優れたデジタルツールを提案する。

プラスチックとは思えない
テクスチャー

手作業による金型の仕上げ

職人が手にしているのは竹串だ。緻密な3Dデータを最大限に再現するため、さらに指先を「本物」と錯覚させる触感工学に基づく特殊な加工を調整するため、檀山金型工業では竹串をヤスリのように使って仕上げている。

D3TEXTURE®による3Dスキャン

日本の最先端3D技術を使って物体をデータ化。革や繊維のような天然素材のランダムなパターンや自然な風合いも再現でき、さらに複雑なカットングや成形を可能にして、触感さえ本物と錯覚する完成度を実現。



この金型の美しさを見よ!



D3TEXTURE

3Dのエキスパート集団「ケイステデザインラボ」が開発。3Dデジタルツールを駆使した。製品表面の加飾デザインプロセスの総称で、これまで困難と言われた3Dデザインの数々の問題を解決した画期的システム。

Simplism x D3TEXTURE

iPhoneケース

数千分の1mm単位で切削成型する技術をもつ檀山金型工業でさえ「ここまで立体的なテクスチャーはなかなかない」と、うなづいたという。プロが見たら「驚愕する」と評判の「次元」の金型は、まるで芸術作品のよう。

iPhoneケース「次元」には、気泡を極力発生させないで貼りつけられる「バブルレスフィルム」、東レが開発した超極細繊維のクリーニングクロス「トレシー」がセットに。実はこの2つもメイド・イン・ジャパンという共通点がある。



「次元」

0.2mmのピッチでデザインした幾何学模様の「峰」(Ridge)、ラムスキンの風合いと触感まで再現した「革」(Leather)、手織みのような「籐」(Rattan)の3種類で各3色展開。プラスチック製だから水に強く丈夫で利便性も高い。

「Made Only in JAPAN」が次元の個性でありコンセプト。「和」のテイストにこだわったパッケージもデザイン。製作、パッケージング作業に至るまですべて国内で行なわれた。バブルレスフィルム、トレシーも同梱されて価格2980円。

檀山金型工業

長野県の高野原。高い技術力、ハイスベックな設備、約100人という豊富な人材、そして、細かすぎることも波及するという職人魂をもち、次元を作れるのはここしかないというケイステデザインラボの推挙で参加。

「メイド・イン・ジャパン」ではなく「メイド・オンリー・イン・ジャパン」が世界のマーケティングを席巻する!
文/川口美彩子